



# 思斉のしせい

大阪府立思斉支援学校 支援室だより  
第47号 令和3年10月20日  
支援室 大坪 由香利

46号に引き続き、「自閉症スペクトラム」をテーマにした連載を中学部大坪が担当します。今号は、本校で実施された夏季公開講座で三木裕和先生がご講話された内容と、わたし自身の実践を絡めて障がいのある子どもたちに接する際に大切にしたい視点を書きます。

講演の中で、「芝桜」の例を取り上げ、教師が見せたい・見てほしい・美しいと思っけていても、自閉症児にとっては、それが恐ろしいほどの不快であり、さらにそれを押し付けてくる人は恐怖でしかないというお話がありました。



今夏、中学部で職場体験実習という行事がありました。靴下ゴムの色分け・ステッフル・ボールペンの組み立て・図書室での軽作業など、4つのグループに分かれて子どもたちは丸一日、実習体験をしました。わたしの担当するAさんはステッフルのグループでした。テレビに作業手順を示した動画を映したり、教員が個別に手本を見せたりして組み立て方を説明しましたが、Aさんは開始の合図で作業をせず、後方のベンチで休んでいました。

しばらくするとAさんは立ち上がって移動し、他の生徒たちの手元が見える位置にある教員用の席に座りだしました。作業に取り組む友だちの様子をしばらく見てから部品に触れ出し、作業を開始させました。

Aさんのペースではあるものの33個のステッフルを順調に組み立てることができました。教員用の席に座ったAさんは、みんなの手元が見えやすい位置にあったこの席に座ることで作業手順を理解し、作業を自主的に開始できたのではないかと考えました。作業の内容を理解したAさんは、再びこの作業をする際は教員の言葉かけに応じて生徒用の席で作業ができると思いました。

わたしが視覚支援と口頭支援の説明で作業手順が理解できていると思ひ込み、自席での作業を強いるとAさんは落ち着いて作業ができていなかったのではないかと思います。理解の仕方が生徒によって違うことを実感しました。

余談ですが、、、

夏季休業期間中に、高等支援学校の進学を希望する生徒と学校見学会に行く機会がありました。そこで、学校紹介をされた先生が4つの「働く力」についてお話しされていました。本校の進路講話でもよく耳にする力についてです。

- ① 遅刻や欠席をしない力
- ② あいさつ・返事・言葉遣い、素直に指示を聞いて行動できる力
- ③ 体力
- ④ 連絡・報告・相談ができる力

この4つの力を伸長できるよう子どもたちの気持ちに寄り添って、日々の指導や支援に努めていきたいです。